

令和6年8月1日現在の世帯数と人口

(千種区 18.18Km²)

学区名	世帯数	人 口			対前月増減	
		総数	男	女	世帯数	人口
1 千 種	6,010	9,391	4,715	4,676	0	1
2 千 石	4,239	6,940	3,468	3,472	8	7
3 内 山	5,885	8,088	4,367	3,721	11	7
4 大 和	3,691	6,722	3,340	3,382	13	25
5 上 野	7,590	15,435	7,545	7,890	19	49
6 高 見	7,517	13,375	6,349	7,026	8	8
7 春 岡	7,278	11,180	5,928	5,252	42	39
8 田 代	11,367	21,890	10,492	11,398	22	23
9 東 山	10,370	18,922	9,230	9,692	22	9
10 見 付	4,525	8,334	4,198	4,136	△ 38	△ 48
11 星 ケ 丘	3,626	6,886	3,058	3,828	0	5
12 自 由 ケ 丘	3,559	7,116	3,240	3,876	0	0
13 富 士 見 台	6,526	15,054	6,834	8,220	△ 10	△ 19
14 宮 根	3,839	7,949	3,675	4,274	△ 3	△ 8
15 千 代 田 橋	3,769	8,114	3,803	4,311	5	△ 8
千 種 区 計	89,791	165,396	80,242	85,154	99	90
R5. 8. 1	88,656	165,230	80,116	85,114	31	26
対 前 年 比	1135	166	126	40	68	64
名 古 屋 市	1,172,347	2,330,296	1,143,650	1,186,646	1,110	858
愛 知 県 (R6. 7. 1)	3,361,706	7,467,278	3,718,105	3,749,173	1,785	△ 1,566

前月中の増減内訳	自然動態			社会動態		
	出 生	死 亡	自然増減	転 入	転 出	社会増減
	71	121	△ 50	1,109	969	140

【参考】

国勢調査千種区人口				これまでの最大人口と最小人口(千種区)	
昭和60年	163,762	平成17年	153,118	最大人口	173,598 (昭和50年2月1日)
平成2年	156,478	平成22年	160,015	最小人口	146,727 (平成11年4月1日)
平成7年	148,847	平成27年	164,696		
平成12年	148,537	令和2年	165,245		

注) 学区別の世帯数と人口は、令和2年国勢調査結果の本市独自集計速報値であり、後日総務省から公表される数値と異なる場合があります。

千種区内の地下鉄各駅の乗車人員の状況

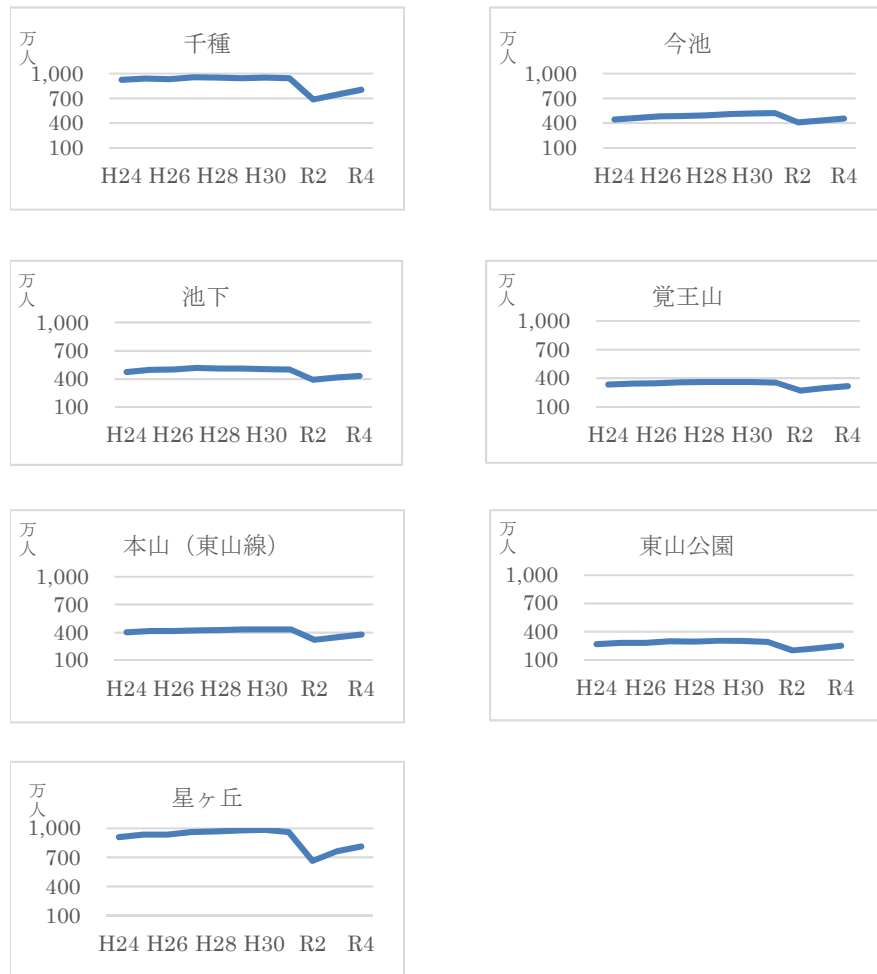


図 1：千種区内の東山線各駅の乗車人員数

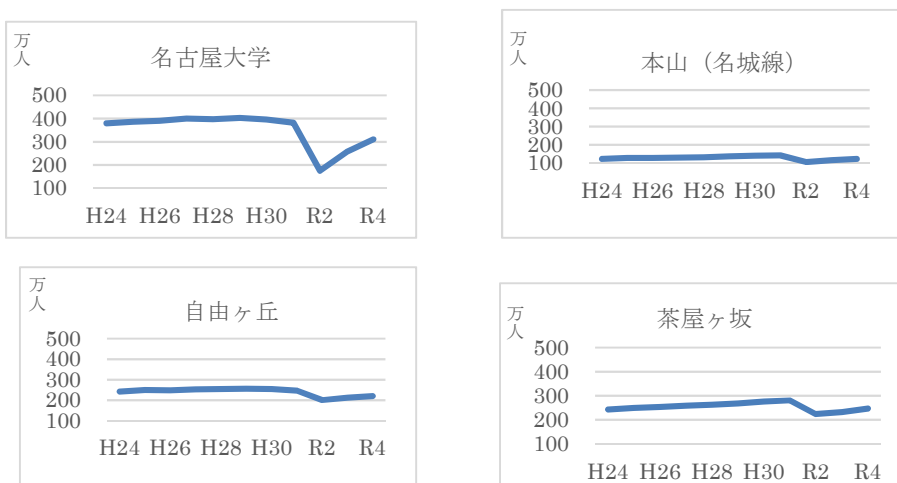


図 2：千種区内の名城線各駅の乗車人員数

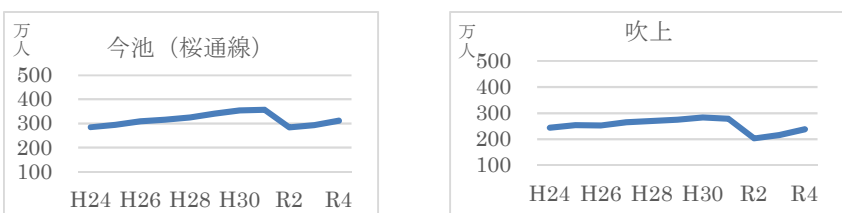


図 3：千種区内の桜通線各駅の乗車人員数

今回は、千種区内にある地下鉄各駅の乗車人数の状況を見てみます。

まず、千種区を東西に横断している東山線を見てみると、令和4年度の乗車人員数は、多い順に星ヶ丘（約814万人）、千種（約806万人）、今池（約453万人）、池下（約436万人）、本山（約379万人）、覚王山（約316万人）、東山公園（約251万人）となっています。

令和4年度はすべての駅で乗車人員数が増加していますが、ピーク時の平成30年度の乗車人員数まで回復していません。特に、星ヶ丘と千種は平成30年度の乗車人員数と比べると約15%から17%減少しており、新型コロナウイルス感染症がもたらした生活様式の変化の大きさがうかがえます。（図1）

つぎに、千種区を南北に縦断する名城線を見てみると、令和4年度の乗車人員数は、多い順に名古屋大学（約311万人）、茶屋ヶ坂（約246万人）、自由ヶ丘（約219万人）、本山（約122万人）となっています。

東山線と同様に、すべての駅で乗車人員数が増加しています。特に名古屋大学は乗車人員が新型コロナウイルス感染症の影響を一番大きく受けた令和2年度と比較して約174万人から311万人と約79%増加しています。他の駅の増加率10%前後と比較して突出した増加率となっています。（図2）

最後に桜通線を見てみると、令和4年度の乗車人員数は、多い順に今池（約311万人）、吹上（約238万人）です。こちらも乗車人員数は増加しています。（図3）